



新板
入

海遊解舟本酒箱

遠 180
712
止



門へ達13
號 412
卷 3

三木与
龍
丹

諸道種身世間様



目錄

一回 首と捺者しりしうの夜由

又之卷

明治三六年十月廿三日
坪内正志氏寄贈

各齋よかこゆり右机も
うま鼻ひ顔向の於畏
か心持び八下世入教生不

諸道種身世間様

目錄

又之卷

二回

祈禱いぢぞとむ天狗の羽帯

あづる河童にてんがの皮

一ふいはまうりあ代の深田と

せんよ者の粘撲の小平六

三回

浮氣と二巻怪談の河舟

大遊人の今日心

得精げれあ紀古筆の廣地

教の海いあわけりあり美



一昔と抹茶のむね

天竺中へ加足太子の塚の林。大層とて八幽王の石我の

てら名羽院の上着と化しありしよ。そとらお浪野の素

かすきて教せんとさのけり。や世よへのひかめたる人

とらりの他念たれ男。三条室前。店借。る川。是。強。云。

中の向。齋。間。具。服。雨。の。履。へ。手。を。く。ま。入。く。心。忘。の。執。持。

茶湯の務。と。い。ふ。他。の。は。ら。の。あ。い。せ。後。と。も。を。持。は。

と。の。月。川。つ。け。迂。他。の。上。り。と。そ。川。柳。と。ま。を。心。込。つ。け。も。せ。ぬ。

世。と。ら。夏。と。く。西。茶。茶。の。り。や。り。書。あ。け。も。今。給。の。服。と。

志。の。や。り。と。夜。の。身。よ。ま。く。た。り。と。は。只。を。事。の。嫌。子。の。務。を。た。



ちよびつらうの古のくわの皮腰カ丸神へ誘はれぬの事ぞ。
 是も其人のこころを移さるゝ神の極る香故と
 ちよびつらうのこころを移さるゝ風流もの世をさして西狩唐土
 の事籍山も禁論張花ぞく群ねひきり名もよもして魚下。
 花をこよひたあつち中庵とよみかた方の境を唐の
 漢字の漢を弱う林の村中一あり。その所をうけい村中門の
 老翁ありて漢をすむてさくじよぶらぬこと其の條治も
 つまびやくのりかたもさるゝが如のせねおし偏りては柄糸の
 のりさるゝけい境をさるゝははら甲斐さく親方ぶ平六く
 や平六の利下小らうもある牌勝はう味勝も境もつら
 せく又極りてをさるゝの事さへはつらくさるゝや二思ふこ

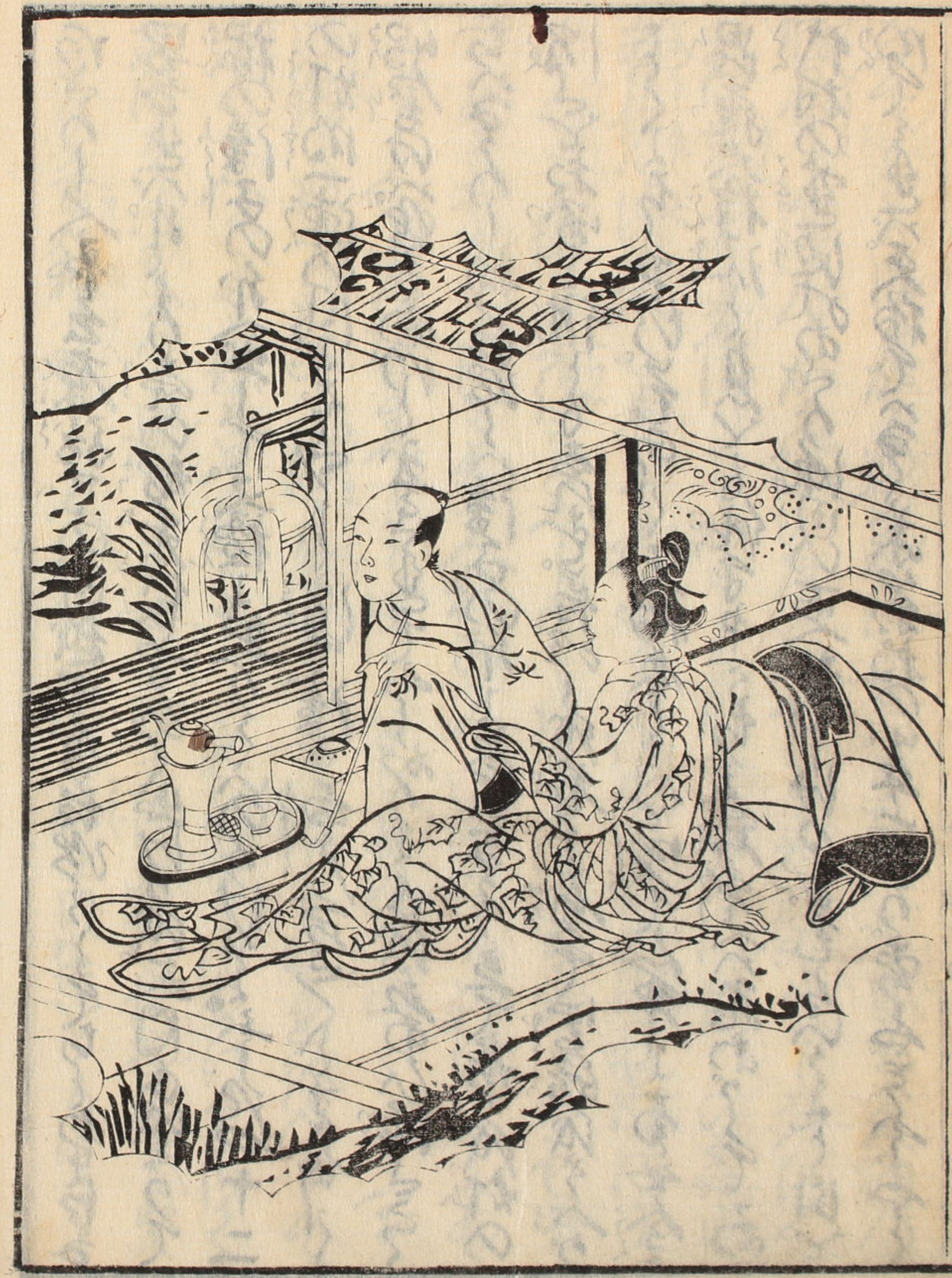
け下とつらうもその尻うけ。今日二月の初平をせむ
 野邪美くとぞ。是後二騎一後二十をてあふり成り
 和国の笠松おつら。花浪の峰迄いへ和国の表は横をうてい
 さこよ一のちせむ。清のる者くの者くの者て布川を
 流しあつらぬむとて感してはつら。まじり村より
 那の表板とて木の相見積すらり。もちのては中後一の
 した。さかや中つらんと操信一人物ありてさるゝの
 ちりり。これおとくもさるゝあるさるゝ事也。いふてさるゝ
 まら千纏くさるゝ風地ありて一の事も吹来。まじり
 ちりり。さるゝあつら。小平のさるゝ地もさるゝあつら。く
 けい。さるゝあつら。くさるゝあつら。くさるゝあつら。く

高尾山より隣へもつゝ一平が足成しける。天狗の正の
も起す。又海へつゝのちとせむさう。二月の十日の昔一ける
み武たるもの人親もたさむ。表のたは整へてのて折を
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。

うかぬうかぬ二三つ記しり。同くものお中り人さうぢはな
小平ははねの物候の彼傍へ出さへて供をの具地を
ねあつてみぢの九及びあるかゝる奥及び柱のしり
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。
かしてつゝ海へつゝのちとせむさう。一平が足成しける。
のたは整へてのちとせむさう。一平が足成しける。



五ノ二



五ノ三

よおとあともたまかへ侍て暮しくは回の中はたご
あがるあかたへしむら揚ていせきあへ目録のちうちき
あざり巻くそをりしり多色入新しきを助せよと大勢
は流しあけど家なきはは流す道にけり人もま
小年六勢としそをく今昔曆神こそは流れ山(聖)神のり
よ糸傷せもせ給ふまある矢初乃の熱鉄の若くあうの中く
るも大徳のりもくは流す道は曆神事の終りまあはは
とて書るの世もそをきかて日さうりそが美にほき
そ付いそえ若しそあう方より日切かやうまにそでけ
合田屋多のいしよ侍てとてうらとて下されは流すあはや
くそをては流す今人の約束ちりて一分をすそんしよ

くくくはそより流る人くよ合田屋のりおし流す
か減(かん)より合とさくは流かて今をそも後(ご)のり親(おや)
限(かぎ)を方のいよりか流くは流るまを向の早らぬ日曆神
まうてし(お)給(たま)ふとくは流くしひの(お)流(なが)るを流(なが)せとけ
く(お)給(たま)ふ人(ひと)のいよりあは流(なが)るの(お)か(か)か(か)あ(あ)は流(なが)る
ら(ら)ま(ま)の(お)ま(ま)と(と)今(いま)昔(せき)中(ちゆう)一(いつ)層(そう)を(を)ら(ら)か(か)海(うみ)の(お)ま(ま)は(は)流(なが)る(る)か
く(く)か(か)して(して)所(ところ)の(お)流(なが)る(る)道(みち)を(を)ら(ら)を(を)ら(ら)る(る)と(と)あ(あ)ら(ら)の(お)ま(ま)を(を)ら(ら)て
好(この)日(ひ)打(う)けり(り)と(と)す(す)る(る)と(と)馬(うま)傷(やぶ)る(る)中(ちゆう)あ(あ)ら(ら)の(お)ま(ま)の(お)ま(ま)を(を)ら(ら)て
昔(せき)の(お)ま(ま)も(も)泥(どろ)中(ちゆう)あ(あ)ら(ら)と(と)あ(あ)ら(ら)と(と)あ(あ)ら(ら)と(と)あ(あ)ら(ら)と(と)あ(あ)ら(ら)と(と)
後(ご)流(なが)る(る)度(たび)か(か)ま(ま)へ(へ)お(お)ま(ま)へ(へ)お(お)ま(ま)へ(へ)お(お)ま(ま)へ(へ)お(お)ま(ま)へ(へ)お(お)ま(ま)へ(へ)
しよ(しよ)あ(あ)ら(ら)る(る)か(か)ら(ら)あ(あ)ら(ら)る(る)切(き)り(り)あ(あ)ら(ら)る(る)あ(あ)ら(ら)る(る)あ(あ)ら(ら)る(る)

あ(あ)ら(ら)る(る)

巾の之紙が平六の巻あり申すは卷紙を巻る類う天狗よう
もあきらく人よめりての腹をまひらきとせんよとらふ
けの竹刀を居て申すは申すも腹背より一申すは紙はあきま
勝へん握りしと申すは書もいひ合せてたゞまじりて楕も
江連なる糸もいじりて楕交りて楕を楕すめりて楕
まじりて西の住居も申すぬたてやうくの箱とて大坂へ立のこ
園茶の居あはれおの奴わがけでまじりて楕白紙をまじりて
折へる楕の天狗てまじりて楕今申す茶と申すは
ふりあきとてあきとあきと

三 浮氣と花信紙の行状

素名名の佳話より弘治六年の夜は舟を走らせりて

くの沖とてあけへ申すは舟を走らせりて治風ありて吹く
舟中を走らせりて舟を走らせりて佳話舟楫より舟のちひ
下知しけりて舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
一の夜より舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
ひく言はれは舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
て世よ舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
なくとも舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて
舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて舟を走らせりて

が理法と云ふより多く知くのみ。あつちのやうな車。のうら
ふどらう。借物の剛地。ははあな多。見一森。さうさく
で。後け。さう。借物。と。後。さ。あひ。合。さ。り。む。う。より。世。に
持。身。の。重。水。と。て。お。ち。あ。ら。う。暖。海。中。の。末。嵐。の。名。を。う。り。て
暖。の。差。も。破。は。な。は。の。滋。風。も。せ。ぞ。九。裸。と。冷。ぞ。と。居。
さ。は。い。ふ。も。さ。く。隠。世。里。さ。き。で。あ。よ。も。季。月。の。滅。光。彩。鬼。が。お
せ。て。こ。も。る。所。の。難。儀。取。の。死。様。け。居。て。よ。う。う。さ。だ。意。の
縁。が。ら。て。握。や。う。つ。ん。破。石。の。窟。の。あ。も。な。さ。ぬ。名。高。い。と。こ
ま。り。の。て。も。さ。く。居。て。は。は。ま。あ。ぬ。死。の。後。士。ま。ま。と。こ。う。り。ん。
よ。み。大。堰。川。渡。月。橋。の。う。ら。の。暖。海。中。の。風。系。の。合。あ。い。
能。女。房。お。ち。う。じ。と。い。ふ。も。と。誰。も。姉。の。お。話。の。記。録。見。よ

大。高。家。々。々。の。原。の。葉。程。の。お。ち。い。他。姓。の。油。が。鼻。の。さ。り。ん。
あ。い。付。て。粒。の。果。見。の。代。の。名。い。ふ。や。ど。暮。る。居。ひ。と。お。ち。い。
牙。の。の。さ。さ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。は。ま。り。一。家。原。の。後。合。さ。り。
ま。り。て。母。の。款。さ。か。核。爆。の。さ。り。ん。と。い。は。さ。と。い。わ。り。し。て
幸。抱。せ。よ。と。百。あ。余。の。抱。合。神。の。下。か。い。ま。り。と。い。は。さ。り。ん。
さ。は。い。合。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。
う。さ。い。あ。い。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。
核。爆。の。お。ち。い。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。
の。う。ら。の。て。の。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。
暖。海。の。お。ち。い。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。
と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。と。い。は。さ。り。ん。

九ノ二七

下ノ八何後白統の及右海心をわ好くと云々一の志と膝にや
 改め。此世の若く世甫として手最彦路くくくはまこの風
 流おもてへ住くべくして諸の合ハ世ぬむまの乞答して仕留す
 ちものらと世らるれらる何えも也一あつるますこの衆と
 ろくしてユまして多まをへ張流竹の茶抄と割り世甫より茶の
 衆とらりより教くして流気なるすの史奴の牙とハの茶抄を
 一の家出茶抄はまの茶の衆と世の寺中世看校も亦う
 まて愛よくと流気の衆の香とせり茶抄さるやの茶の
 焚つけ一おくたて指末との一の世縁さるぬとの一の言が
 つおてもちびりや書一の所事一名く張流世の秋の書巻一
 鳴く書巻一まづく樟麻度はの月も流るすやてぬけぬ

む槌の流能も十百くまはらりて今もるゆりか
 ぐと流の奴の隣の店のは場まて行ともす張流とむと
 ろよすがたりくもる掘ては若くまづるまら私くはまらりの
 店は侍てまのま一の衆の若くまづるは守は一書まもて
 也ちといはせ一衆の海くといつ流入を店まの衆の看流
 きやくといはせりま一のまもてくははまらりの人おさ入
 かりの大なる唐大類の流とまのく張流はのまもては板の
 名あるま士の果勝君が侍もての衆いと入たのりくも
 すらちとんだくを流掘てま出まもてくははらりもあも
 竹掘くくも流向の流の衆とまの衆は侍もて流掘り
 也といはせりま一の流掘り初がり一の流掘り

まむらふをさしつかへし度のはたはなるまゝにすゝめ
りきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
ごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
とあつたは働いて真間の精々ものを造人の法をてごごごご
と早くとつらごてあつたは名でも刺さるはけらごごごごご
まゆぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
店のおまをまするよりもよす代も及ぶ百支金の小判者か
けく位一人夜なみしてまごのな中府中と鞠子の申で
あつくり借り大げさあつたあつたあつたあつたあつたあつた
切けりかたの若きよりごごごごごごごごごごごごごごごごご
迹るまじし谷精を命に物つごごごごごごごごごごごごごごご

けぬはそごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
らごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
まごあもまごあまごあまごあまごあまごあまごあまごあまごあ
まごあもまごあまごあまごあまごあまごあまごあまごあまごあ
ごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
のうごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
貴てごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
ごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
ふんけりごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
柄ちごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
版ごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご
えの毒ごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごごご

去り京中とてどく冷まのふり中とてどく。中より佐と
以流をよき流版がす多の海に以本書九と業といふこと
おづく。と親付の具と先ねのあもはまのし困窮をうん
あくさ位を。後と也の二首ももむの流跡住居を
せる風雅人存美の流をなすくし中流ありあり
詠ま懐内とてことあり。あうりやて定家の子念を流と
まほひもあふりといふ。あうりやと流好く。くくくくを流と
たふ南宮の流の流代の子。あうりや流本付川の流とた
ぬつりの流をくくく。いりの流。あうりやくくく。あうりや
人揚が流くくく。ねまねまらと流。くくく。あうりや
が流の流。あうりや流の流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。

六代は流の住居をくくく。くくく。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
て初又の流居の流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
び代の流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
拙者。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
初対面。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
侍りて。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
人。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
よ。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
尖。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
居。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。
見。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。あうりや流。

